

当院生殖内分泌外来における人工授精 及び生殖補助医療の診療実績

谷 口 真 紀 金 崎 春 彦 折 出 亜 希
お だ ひろ え きょう さとる
か 田 裕 枝 京 哲

キーワード：不妊症，生殖補助医療，人工授精，妊娠率，女性の年齢

要 旨

島根大学医学部附属病院産科婦人科生殖内分泌外来にて2011年1月から2021年12月の間に行った人工授精と2014年1月から2021年3月の間に実施した生殖補助医療（体外受精／胚移植）の診療実績を分析し，今後の課題について検討した。同期間の人工授精実施件数は749名に対して2,571周期であり，年々増加した。過去10年間の人工授精1回あたりの妊娠率は5.8%（148例／2,571周期）であり，妊娠率は年齢が高くなるに従い低下した。42歳以降の人工授精での妊娠例はなかった。2014年から2021年までの生殖補助医療の実施件数は923名の患者に対して計2,311回の採卵を行った。胚移植はのべ3,288周期に実施した。採卵数，移植数ともに年々増加した。胚移植1回あたりの妊娠率は23.9%（787例／3,288周期）であり，治療年齢が上がるに従い低下した。

令和4年4月から人工授精，生殖補助医療ともに保険適用となった。ステップアップを遅らせることなく，治療を進めることが重要と思われる。

はじめに

島根大学医学部附属病院（以下，当院）産科婦人科では，日本産科婦人科学会の生殖補助医療（Assisted Reproductive Technology：ART）登録施設として体外受精—胚移植を実施している他，人工授精（Artificial Insemination Husband：

AIH）を含む一般不妊治療を行っている。また当院は島根県より不妊相談事業も委託され，不妊症，不育症など妊娠・出産に関する不妊相談員も設置している。不妊症は「生殖年齢の男女が妊娠を希望し，ある一定期間，避妊することなく通常の性交を継続的に行っているにもかかわらず，妊娠の成立をみない場合（日本産科婦人科学会）」と定義されており，本邦においては挙児を希望するカップルの10～15%が不妊であり，健康な夫婦の1割が不妊に悩んでいると考えられている¹⁾。

Maki TANIGUCHI et al.

島根大学医学部産科婦人科講座

連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

島根大学医学部産科婦人科講座